

遠賀川川下り爽快 大会に40人参加



一斉にスタートを切る出場者

イカダやゴムボートで遠賀川を下る「遠賀川川下り大会」が27日、飯塚市を出発地に行われ、約400人が参加した。

飯塚市中心部の芳雄橋付近から北九州市八幡西区までの約21キロでタイムを競う。市販のボートの使用も認められているが、大半のチームは木材や発泡スチロールなどで手作りしたイカダで参加するのが特徴だ。4人組でこぎ、途中で選手交代もできる。

今回は幅70センチ超の「いかだ部門」に30チーム、70センチ以下の「舟部門」に7チ

ムがそれぞれ出場した。午前8時半、陸上自衛隊飯塚駐屯地音楽部の演奏に送られながら、出場者は合図と共に下流を目指して一斉にこぎ出した。

嘉麻市の角七誠二さん(38)は、職場の同僚でチームを組み、イカダも手作りした。「世代を超えて一緒にパトンをつないでいくところがとても楽しい」と話していた。

各部門の上位チームは次の通り。

◇いかだ部門①福岡トヨタレーシング(2時間37分4秒)②ネッツトヨタ北九州(2時間48分47秒)③オーシャンズ(2時間51分26秒)

◇舟部門①みろく園(3時間36分30秒)②ボランティアきらり(3時間57分0秒)③イーです艦・豊徳(4時間36分50秒)

遠賀川 川下り 37チーム競う

手作りのイカダや舟で遠賀川を下る「遠賀川川下り大会」(実行委主催)が27日、飯塚市内であった一写真。

遠賀川に親んでもらおうという企画で、飯塚市中心部の芳雄橋近くから八幡西区木屋瀬の中島橋までの全長約21キロでタイムを競った。

今年には計37チーム、398人がエントリーした。舟の形は原則自由で、競技で使うボートのような形がある一方、浮輪をつなぎ合わせただけのイカダなどがあつた。

午前8時半のスタート開始直後に乗員が川に投げ出されるチームもあり、観客からは大きな歓声が上がっていた。優勝は、福岡市から参加した「福岡トヨタレーシング」で、2時間37分4秒だった。【佐藤心哉】





出発直後、懸命にこぐ参加者たち—飯塚市

遠賀川きれいにしよう

飯塚～直方 37チーム川下り

遠賀川川下り大会が27日、飯塚市から直方市までの約21^{キロ}のコースで開かれた。水質浄化を訴えようと始まり、今年で35回目。37チーム約400人が参加し、手作りのいかだや舟を懸命にこいでいた。なかなか進まず川に下りて押したりする人の姿も見られた。



オールが故障するハブニングに耐えた直方市の「直方ガス号」

遠賀川川下り

筑豊の21チーム奮闘

オール壊れ焦った／来年は上位へ



改良を重ねた船で臨んだ飯塚市の「ヘラクレスII・タカハ機工」



力強くオールをこぐ田川市の「東町青壮年会」

飯塚市中心部から直方・北九州市の境まで全長約21^{キロ}のコースで27日開かれた第35回遠賀川川下り大会には、筑豊地区からも21チームが出場し、手作りのいかだや舟でゴールを目指した。完走した地元チームのうち3チームに感想を聞いた。

「ヘラクレスII・タカハ機工」は飯塚市有安の電機部品製造会社の社員で結成。茶園千恵子さん(23)は

「無我夢中でこいだので、あっという間の21^{キロ}だった」とさわやかな笑顔で語った。

「東町青壮年会」は田川市の自治会役員を中心に、31～78歳の地域住民で出場した。荒瀬昭彦さん(70)は「高齢者が多いが、他の若いチームに気持ちでは負けていなかったと思う。いかに部門で12位だったが、来年はもっと上位を目指す」と力を込めた。

「直方ガス号」は直方市のガス会社社員によるチーム。渡辺隆太さん(24)は「オール6本のうち3本が壊れ、かなり焦った。ハブニングを乗り越えてゴールでき、メンバーの結束感が高まった」と達成感に満ちた表情だった。(中島早貴)